

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 話・聞：話す能力・聞く能力
 書：書く能力
 読：読む能力
 言語：言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
話すこと・聞くこと イ	1	一	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	話・聞	70.0	88.6	
		二	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	話・聞	70.0	71.0	
		三	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	話・聞	70.0	80.3	
言語事項 ア	2	一	(1)	学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読む。	言語	80.0	98.3
			(2)			80.0	94.4
			(3)			80.0	94.3
			(4)			70.0	75.3
	二	(1)	前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書く。	言語	80.0	77.5	
		(2)			80.0	87.9	
		(3)			70.0	47.4	
		(4)			80.0	92.5	
言語事項 イ(ウ)	三	(1)	日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。	言語	65.0	70.6	
		(2)			60.0	70.1	
言語事項 オ(ウ)	四	(1)	文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。	言語	80.0	72.0	
		(2)			80.0	92.0	
言語事項 エ(イ)	五	(1)	表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる方法を理解する。	言語	80.0	55.5	
		(2)			80.0	78.6	
言語事項 オ(ア)	六	(1)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。	言語	60.0	70.9	
		(2)			40.0	44.8	
読むこと ウ	3	一	場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読む。	読	75.0	72.6	
		二			70.0	81.1	
		三			70.0	85.8	
		四			70.0	87.1	
読むこと オ	4	一	目的に応じて、必要なところは細かい点に注意して文章を読む。	読	50.0	62.6	
		二			60.0	37.3	
読むこと イ	四	三	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む。	読	60.0	30.9	
		四			60.0	59.1	
書くこと アイウエ	5	相手や目的に応じて、適切に書く。 書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。 書こうとすることの中心を明確にして書く。	書	65.0	52.7		

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	一	話の内容を聞く。(理由)	70.0	89.1	88.9	91.9	89.6	94.2	84.7	87.8
	二	話の内容を聞く。(実験の目的)	70.0	70.7	70.6	72.1	71.3	74.6	72.3	67.0
	三	話の内容を聞く。(わかったこと)	70.0	80.3	80.4	77.3	83.5	82.5	87.0	82.3
2	一	(1) 「周(り)」の読み方	80.0	98.6	98.6	99.4	98.6	97.9	98.6	99.2
		(2) 「代(わる)」の読み方	80.0	95.0	95.0	94.8	91.9	90.5	93.9	92.1
		(3) 「薬局」の読み方	80.0	95.4	95.4	94.2	91.0	90.7	90.2	91.7
		(4) 「飲食店」の読み方	70.0	76.6	77.2	66.9	77.6	78.5	77.5	76.8
	二	(1) 「しゅっせき」の書き方	80.0	78.4	78.4	78.5	74.9	73.2	78.1	74.8
		(2) 「お(く)」の書き方	80.0	90.6	90.6	90.7	90.1	90.0	90.5	89.8
		(3) 「こっき」の書き方	70.0	49.7	49.3	56.4	38.2	31.9	36.3	46.3
		(4) 「えら(ぶ)」の書き方	80.0	91.6	91.4	94.2	93.0	92.5	94.5	92.5
	三	(1) ローマ字「kingyo」の読み方	65.0	70.8	71.2	64.5	72.2	71.1	74.4	71.9
		(2) 「さくら」のローマ字での書き方	60.0	69.2	69.5	64.0	76.7	73.6	79.3	78.5
	四	(1) 適切な接続詞の使い方	80.0	73.2	73.2	74.4	72.3	77.9	71.8	66.7
		(2) 適切な接続詞の使い方	80.0	91.2	91.1	93.0	94.0	94.6	93.7	93.6
	五	(1) 国語辞典の使い方	80.0	58.7	59.1	52.3	57.6	61.8	53.3	55.7
		(2) 国語辞典の使い方	80.0	80.6	80.9	75.6	79.3	80.6	82.1	76.1
六	(1) 主述の関係	60.0	68.7	68.8	66.3	75.7	77.1	73.5	75.7	
	(2) 修飾と被修飾の関係	40.0	45.4	45.2	48.3	53.8	60.2	52.2	48.0	
3	一	細部の読み(冷たいものは何か)	75.0	74.1	74.8	64.0	71.4	74.8	72.6	66.9
	二	細部の読み(ちっぼけに感じた理由)	70.0	81.5	82.2	70.9	80.7	82.8	80.7	78.5
	三	細部の読み(心配の内容)	70.0	86.4	86.2	88.4	84.4	86.0	85.0	82.3
	四	細部の読み(後半の要旨)	70.0	87.7	87.5	90.7	86.2	86.5	88.8	84.2
4	一	細部の読み(住みごこちのよい理由)	50.0	62.9	63.3	56.4	64.9	65.8	66.6	62.7
	二	指示語の内容(これら以上に)	60.0	38.4	38.9	30.2	37.5	38.9	39.5	34.8
	三	段落相互の関係	60.0	30.7	30.8	29.7	29.7	26.8	32.3	31.3
	四	段落相互の関係	60.0	59.5	59.5	59.3	60.1	62.0	61.7	57.1
5		目的に応じた表現(紹介文)	65.0	55.6	56.1	47.1	60.7	64.4	67.7	52.2
教 科 全 体			69.8	73.2	73.4	71.1	73.5	74.3	74.2	72.0

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
89.8	90.2	89.0	91.7	86.8	88.7	88.2	89.5	88.8	86.8	86.4	88.0	87.3	87.7	86.1	88.6
70.4	70.8	63.5	76.3	70.6	72.2	74.1	74.3	69.9	72.6	75.3	62.7	70.4	70.3	70.5	71.0
81.7	82.9	81.4	76.9	81.2	80.0	80.8	80.4	79.3	79.0	80.5	73.5	78.4	78.5	77.8	80.3
98.5	98.5	99.2	98.4	97.4	98.2	98.8	97.7	98.0	98.7	98.9	98.2	97.9	98.0	97.6	98.3
95.0	94.4	95.0	97.4	96.0	94.0	96.1	92.8	93.3	94.5	94.7	94.0	94.7	94.6	95.3	94.4
91.9	92.2	91.1	92.3	91.1	95.5	95.5	94.3	96.1	94.9	96.0	91.0	95.8	95.7	96.4	94.3
71.4	73.6	69.3	67.3	67.7	71.8	77.1	69.0	69.5	78.3	79.0	75.9	77.6	78.4	74.9	75.3
77.8	76.8	81.1	75.6	80.5	75.1	78.0	75.9	72.7	75.9	77.1	71.7	79.8	79.0	82.2	77.5
80.4	78.9	81.1	91.0	76.6	90.0	93.2	88.8	88.5	80.1	81.6	74.7	90.9	90.2	93.4	87.9
43.2	42.5	48.0	45.2	38.6	49.4	55.3	45.6	47.4	38.7	38.8	38.6	54.0	56.6	44.8	47.4
93.9	93.5	95.3	94.9	93.4	91.1	92.7	90.1	90.5	92.7	93.5	89.8	92.9	92.4	94.7	92.5
69.8	73.6	67.2	64.7	58.4	74.0	83.0	65.6	72.0	69.0	72.4	56.6	68.6	68.4	69.1	70.6
68.8	72.7	60.9	70.5	57.1	75.7	83.0	66.2	75.4	72.2	74.5	63.9	64.8	64.5	65.5	70.1
70.5	70.8	70.9	72.1	66.7	72.2	74.5	73.8	69.9	68.4	71.4	57.2	72.7	72.3	73.9	72.0
92.0	93.0	89.5	90.4	91.7	93.6	96.4	93.7	91.8	92.4	94.5	84.3	90.4	90.2	91.1	92.0
52.1	53.4	52.5	51.0	45.5	55.7	58.5	54.2	54.5	54.0	54.6	51.8	54.8	55.4	53.0	55.5
76.4	78.0	76.1	74.0	70.6	80.2	83.9	76.4	79.5	80.5	82.6	72.9	76.7	76.2	78.4	78.6
70.0	73.5	63.8	74.4	55.1	76.5	85.5	70.3	73.5	69.6	75.4	47.6	68.1	66.1	74.8	70.9
47.1	50.5	41.7	45.5	38.0	51.1	56.1	45.6	50.4	41.4	42.6	36.7	34.7	33.3	39.8	44.8
70.4	70.4	70.1	67.0	73.9	72.7	77.6	71.9	69.7	69.0	70.6	63.3	74.3	74.6	73.4	72.6
82.2	83.3	79.8	82.4	78.9	81.4	85.6	79.3	79.7	79.0	81.3	70.5	80.2	80.3	79.8	81.1
85.7	86.5	86.1	82.4	84.8	85.6	88.3	85.0	84.0	83.6	85.1	77.7	86.6	87.5	83.5	85.8
85.4	86.1	85.6	82.4	84.8	88.6	91.2	89.2	86.6	85.1	86.9	78.3	88.0	88.4	86.7	87.1
60.9	61.2	58.5	66.0	56.8	64.0	71.8	59.3	61.0	55.9	57.4	50.6	63.4	64.1	60.9	62.6
37.8	39.7	34.4	37.2	33.0	34.9	41.5	32.3	31.8	37.1	40.1	25.9	37.6	37.2	39.1	37.3
29.7	33.0	24.7	24.4	24.8	28.4	33.6	28.5	24.9	26.8	27.5	24.1	35.2	35.0	36.0	30.9
59.4	61.3	54.9	57.1	57.4	59.8	64.2	58.4	57.4	55.7	60.3	38.6	58.6	59.0	57.0	59.1
55.1	57.4	54.6	51.0	48.2	53.3	63.9	45.1	50.2	55.0	59.8	37.3	43.1	41.7	47.7	52.7
71.7	72.8	70.2	71.4	68.1	73.3	77.4	71.2	71.7	71.0	72.8	64.1	72.0	72.0	72.3	72.5

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1一		80.0	70.0
書くこと	1		5	52.7	65.0
読むこと	8	3二、3三、 3四	4一、4二、 4三、4四	64.6	64.3
言語事項	16	2一(1)、2一(2)、 2一(3)、2二(2)、 2二(4)、2四(5)	2二(3)、2三(1)、 2三(2)、2五(1)、 2六(2)	76.4	72.8

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは、「話すこと・聞くこと」、「言語事項」である。通過率が低かったのは、「書くこと」、「読むこと」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「話すこと・聞くこと」、「言語事項」であり、同程度だったのは、「読むこと」である。また、下回ったのは「書くこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1一		80.0	70.0
書く能力	1		5	52.7	65.0
読む能力	8	3二、3三、 3四	4一、4二、 4三、4四	64.6	64.3
言語につい ての知識・ 理解・技能	16	2一(1)、2一(2)、 2一(3)、2二(2)、 2二(4)、2四(5)	2二(3)、2三(1)、 2三(2)、2五(1)、 2六(2)	76.4	72.8

観点別にみると、通過率の高かったのは、昨年度と同様、「話す能力・聞く能力」と「言語についての知識・理解・技能」である。

通過率が低かったのは、「書く能力」、「読む能力」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「話す能力・聞く能力」、「言語についての知識・理解・技能」であり、同程度だったのは、「読む能力」である。また、下回ったのは「書く能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
2	二(3)	47.4	70.0	「旗」の間違い(30.0)、「国」のみ記述(6.5)、その他(6.0)、無答(13.5)
2	五(1)	55.5	80.0	イ(42.0)、ア(7.0)、その他(2.5)
4	二	37.3	60.0	「のどのおくに生えているせん毛」(15.0)、「なみだは微生物を殺すはたらきをしている」(14.5)、「体をおおっている皮膚」(3.5)、なみだ(2.5)、無答(13.0)
4	三	30.9	60.0	②-③(18)、③-④(9.0)、①-②、⑦-⑧、⑨-⑩(2.5)、⑥-⑦(2)、無答(10.5)
5		52.7	65.0	一つ選んで紹介する文を書いていない(10.0)、内容が題意と合わない(6.5)、主語がない(4.5)、段落構成ができていない(3.0)、すばらしいと思うことが3つ書けない(2.5)、無答・途中までしか書いていない(19.5)

- 2 二(3)について

誤答の原因として、無答が多いことや、「国」は書くことができるが、「国期、国旗、国族」のように「旗」の誤答が多かったことから、「旗」の文字を正しく理解していないことが考えられる。

- 2 五(1)について

誤答の原因として、「イ(伝える)」が多かったことから、最初の送り仮名「え」に目が奪われてしまい、読み仮名の2文字目「た」の存在を忘れたことが考えられる。

- 4 二について

誤答の原因として、「のどのおくに生えているせん毛」「なみだは微生物を殺すはたらきをしている」を多く指摘していることから、指示語の働きを理解していないことが考えられる。

- 4 三について

誤答の原因として、形式段落②と③の間、形式段落③と④の間が多かったことから、各形式段落に書かれている事柄や内容で文章の構成をとらえず、「問いかけの文」は文章の初めの方にあると考え挿入したため、段落相互の関係をとらえることができなかつたと考えられる。

- 5 について

誤答の原因として、すばらしいと思うことから一つを選んで紹介する文がないのが10.0%、内容が題意と合わないのが6.5%、主語がないのが4.5%、段落構成ができていないのが3.0%、すばらしいと思うことが3つ書けないのが2.5%、無答や途中までしか書いていないのが19.5%であることから、問題の意図を十分に読み取ることができなかつたことや主語、段落構成などの意識がなかつたこと、そして表現する題材をすぐに決定することができなかつたことが考えられる。また、最後の問題であったことから、解答するための時間が不足していたことも予想される。

カ 今後の指導について

内容・領域別に見た課題としては、昨年度と同様、他と比較して通過率の低かった「書くこと」と「読むこと」の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、特に以下の指導が重要である。

- 「書くこと」
- 相手や目的に応じて、適切に書くこと。
 - 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。
 - 書こうとする事を中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。
- 「読むこと」
- 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。
 - 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。

評価の観点別にみた課題としては、昨年度と同様、「書く能力」と「読む能力」の育成が挙げられる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題として、「話すこと・聞くこと」については、聞くことの目的や意図を明確にし、話し手の意図をつかみながら聞く能力の育成が挙げられる。

今後の学習指導においては、話し手の「意図をつかみながら」聞くことが重要である。話し手の意図をつかむとは、話し手の伝えたい内容や思いを自分の考えをもってとらえることである。そのためには、話を聞き取る観点に着目してメモを取り、メモを基に自分の考えを構成する指導も必要である。話を聞き取る観点としては、話の組立て（はじめ－中－おわり等）や文の成分（接続語や文末表現など）などが挙げられる。

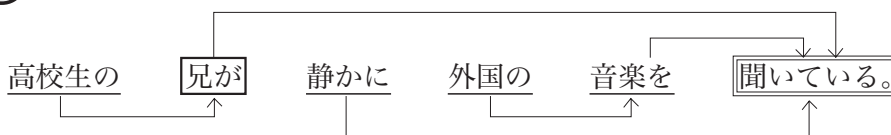
あわせて、聞き取りメモの内容（5W1Hや自分の考えなど）やメモの取り方（単語・短文・箇条書き・体言止めで書く、記号・けい線・矢印を使うなど）の指導も大切である。

「言語事項」については、「漢字の書き方」と「国語辞典の使い方」及び「修飾と被修飾の関係」が低かったことが挙げられる。

今後の学習指導においては、「漢字の書き方」については「国旗」を「国期」と書くなどの誤答が多かったことから、音・訓・意味の3つをまとめて指導するとともに、同音異義語や類似した字形などを区別して使えるよう、日々の学習の中で繰り返し漢字を使わせることが重要である。

「国語辞典の使い方」については、国語辞典の見出し語の並び方が、五十音順になっていることは理解できており、一字目を見つける時には五十音順を意識するが、二字目以降は意識せず探している場合もあると考えられる。当然のことだが、日ごろから分からない言葉があったら国語辞典を引くという指導が、国語辞典の使い方を定着させる近道である。なお、基本である言葉の並び方（清音→濁音→半濁音）や言葉の形（言い切りの形）について、時々確認することも必要である。

「修飾と被修飾の関係」については、昨年度に引き続き通過率が低かった。習熟の機会が不足していることが考えられるので、継続的に繰り返し指導する必要がある。また、文節ごとのカードや文図などを使った視覚的な指導も必要である。

指導例**修飾語と被修飾語の関係のとらえさせ方 (2六)**

- (1) 主語と述語を囲む。
- (2) 修飾語にサイドラインを引く。
- (3) それぞれの修飾語はどの言葉を詳しくしているのか、関係が分かるように→を書き込む
(「なには⇒どんなか」、「どんなふうに⇒どうしたか」を考えさせる)。

「読むこと」については、文学的文章の正答率は、特に通過率の低い設問はないが、今後の学習指導においては、新しい学習指導要領との関連も考慮し、文学的文章の構造を学ぶための基本的な要素である「登場人物」や「設定」のとらえ方として、どのような文学的文章にもある程度通用する5W1H(いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように)を手掛かりにするなど、読み取る方法(観点)を身に付けさせる必要がある。また、低学年は「行動」、中学年は「気持ち」、高学年は「心情」というように指導事項を段階的に示しているのも、その系統性を踏まえ、ねらいを重点化することも重要である。

説明的文章においては、内容を読み取るために必要な「問いかけの文」(疑問を表す一文)を挿入する設問の通過率は、30.9%と低くなっている。この問題は、段落相互の関係を考える能力が必要であり、その能力を育成する必要がある。

今後の指導においては、「序論」「本論」「結論」という説明的文章の全体構成をとらえさせることが大切である。そのために、文頭の接続語や指示語、文末表現などを理解させることや各形式段落ごとに内容の要点をつかませる指導が大切である。

「指示語」の使い方を考え、文や段落のつながりに注意して読む設問は、通過率が37.3%で、昨年度の66.6%より下がった。

指導例**「指示語の内容」・「段落相互の関係」のとらえさせ方 (4二)**

- ④ でも、安心してください。わたしたちの体には、自分で自分を守るための仕組みがあるのです。
(それでは、どのような体を守る仕組みがあるのでしょうか。) 補足
- ⑤ まず、体をおおっている皮膚です。きずでもないかぎり、微生物は、皮膚を通して体の中に入ることはありません。それだけでなく、皮膚が老化し、あかになって落ちるとき、微生物も落ちてしまいます。
- ⑥ それから、なみだも、目から入ろうとする微生物を流してしまいます。
- ⑦ これら以上に大事なものは、のどのおくに生えているせん毛です。せん毛は、鼻や口から入ってきた微生物を、外へ外へとおし出す役目をしているからです。

今後の指導としては、「指示語」の前後だけを短絡的に読むのではなく、前述の「問いかけの文」にかかわる設問と同様、この文章を貫くテーマを意識しながら、さらに、段落相互の関係も考えながら、内容を押さえることが必要となる。上記の指導例のように、矢印や下線で視覚的にとらえさせるのも一つの方法であると考えられる。

「要約」の問題の通過率が62.6%であった。目的に応じて、必要なところは細かい点に注意して文章を読ませる指導を継続して行わせたい。

「文のならば換え」の問題の通過率は59.1%であった。筆者の論理の展開を順に追いながら、文章を正しく読ませる指導も継続して行わせたい。

「書くこと」については、昨年度と同様、「相手や目的に応じて、主題意識をより明確にもつこと」や「目的に応じて、説明と意見を区別して、段落意識をもって適切に書くこと」の能力の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、「何のために」「だれに」書くのかといった目的意識と相手意識をもたせることが重要である。その上で、目的や課題に応じた文章の種類や様式など（言語活動例）を示し、書き方を指導し、慣れさせることが必要である。その際、文字数や様式などの条件を設け、与えられた条件に応じて書けるような活動も取り入れて、書く活動に慣れさせることも重要である。

なお、段落意識をもたせるためには、まとまりのある文章を箇条書きにしたり、形式段落に小見出しを付けたりするなど、「読むこと」と関連付けて簡潔な表現方法を指導する必要がある。

設定通過率との比較からみた課題としては、「言語事項」と「読むこと」の充実が挙げられる。

言語事項では、昨年度に引き続き「国語辞典の使い方」を出題した。類似問題ということもあって設定通過率を80%としたが、大きく下回って55.5%の通過率であった。

説明的文章では、指示語の記述問題と段落相互の関係を問う問題を昨年度に引き続き出題した。指示語の記述問題は37.3%、段落相互の関係を問う問題は30.9%と、どちらも設定通過率を大きく下回った。

今後の学習指導においては、「国語辞典の使い方」に関しては、ただ単に国語辞典の使い方だけを指導するのではなく、子どもの興味・関心・意欲を高めるような授業、例えば、クイズやゲーム、早引き競争など、国語辞典を使った学習を工夫することも必要である。

「指示語」や「段落相互の関係」に関しては、「書くこと」に慣れさせることと併せて段落を意識した短い文章をたくさん書かせることも必要である。その際、「○○という指示語を使って」「事実と意見に分けて2段落で」などといった条件を提示して書かせる工夫も必要である。

キ まとめ

国語全体としては、問題の難易度を高めた影響もあり、通過率が昨年度を下回った。内容・領域別で見ると、「話すこと・聞くこと」が約7%、「書くこと」が約15%、「読むこと」が約4%、「言語事項」が約12%低下した。

設定通過率との比較で見ると、「読むこと」が0.2%上回っただけで、他は約10%から18%下回った。特に「書くこと」は12%、「言語事項」は17.6%と、その差が大きかった。

「書くこと」の領域では、「自分の考えを書く」ことはできるが「条件を踏まえて文章を書く」こと、「言語事項」では、通過率の低さが毎年のように指摘されている「修飾語・被修飾語の関係をとらえる」ことに不十分な点が認められる。

今後は、「書く能力」の向上を図るためには、授業のまとめの場面等を活用して、理解した内容を自分の言葉で再構築させる指導や学習した書き方で書かせるなどの指導も行うべきである。

「言語についての知識・理解・技能の向上」を図るためには、様々な種類の文にふれさせる中で、煩雑な文章こそ余分なものを削ぎ落とし、まずは「主語」と「述語」を確認することから始めることを理解させる指導も行うべきである。